

48 鳥インフルエンザ、BSE、口蹄疫等の 効率的なリスク低減技術の開発

【654（587）百万円】

対策のポイント

重大家畜疾病のまん延防止や人獣共通感染症のヒトへの感染防止のため、検査技術の迅速化や病原学的・疫学的知見の集積を図ります。

<背景／課題>

- ・口蹄疫等の重大家畜疾病は、ひとたび大規模に発生すると莫大な経済的損失を招くだけでなく、畜産物の国際貿易上の重大阻害要因となることから、まん延防止対策が重要となっています。
- ・共通の病原体により人間と動物の間で伝播する伝染病である高病原性鳥インフルエンザ（A型インフルエンザウイルス）、BSE（異常プリオン）等は、世界的に家畜等での発生が報告されており、ヒトへの感染防止対策が重要となっています。
- ・「食料・農業・農村基本計画」でも、動植物防疫の推進等の幅広い分野において、安全性向上に活用するための調査研究を推進することとされています。

政策目標

- 口蹄疫発生農場におけるウイルス排泄抑制のための抗口蹄疫ウイルス薬の実用化、口蹄疫の迅速診断技術の開発（平成24年度）
- 鳥インフルエンザウイルスの迅速な診断技術（判定時間を24時間程度から4時間以内に短縮）の開発（平成24年度）
- BSE伝達性の迅速な診断技術（200日を100日に短縮）、BSEプリオンの効率的な検出技術の開発（平成24年度）

<主な内容>

1. 口蹄疫対策技術の高度化

口蹄疫の防疫に資する抗ウイルス薬の実用化に向けた評価、変異があってもウイルス抗原を検出できる検査技術の開発等を行います。

2. 鳥インフルエンザ等のウイルス感染症対策技術の高度化

鳥インフルエンザウイルスの変異・増殖機構の解明、ウイルス検査の迅速化技術の開発等を行います。

3. BSE対策技術の高度化

プリオン蛋白質の性状解明、効率的な検査法の開発の他、肉骨粉等の低コスト不活化処理のための技術開発を行います。

（補助率：定額
事業実施主体：民間団体等）

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究開発官（食の安全、基礎・基盤）
（03-3502-7430（直））]

鳥インフルエンザ、BSE、口蹄疫等の 効率的なリスク低減技術の開発

背景・ニーズ

- 国内発生リスクが依然として高い鳥インフルエンザ、食の安全の観点から対策の継続が必要なBSE等の重大家畜疾病、人獣共通感染症の蔓延防止のための研究開発が必要。
- また、平成22年4月に発生した口蹄疫に対する防疫措置の高度化に資する研究開発が急務。

これまでの研究

〈鳥インフルエンザ〉

〈H5亜型特異的リアルタイムPCR法の開発〉

- 検出精度がほぼ100%のNP遺伝子検出法を開発し、行政と連携して実用化
- 卵でのウイルス分離を行うことなく亜型判定が可能となり、検出の迅速化

〈BSE〉

〈異常プリオンの効率的な検査法の開発〉

- 試料中の異常プリオンタンパク質を効率的に検出する方法を開発

拡充内容〈口蹄疫〉

今後の万一の発生に備え、豚からのウイルス排泄を抑制するための抗ウイルス薬の実用化に向けた評価、高感度検査法の開発等を行う。

- 抗ウイルス薬の野外使用における有効性の評価
- 変異があっても口蹄疫ウイルスを早期に検出できる検査技術の開発

得られる成果

感染症の迅速検査技術の開発等により防疫措置の高度化に貢献